

中学生の「税についての作文」

大木町長賞

税金の意識

大木町立大木中学校

三年 岡崎 弘樹

税にはたくさん種類がある。消費税、所得税、酒税やたばこ税などの国税。住民税、固定資産税、自動車税などの地方税と様々だ。

私たち中学生にとって一番身近にあるのは消費税だ。消費税とは消費に対する税、つまり、ものを買う時に課せられる税だ。普段、当たり前のようにものを買っているが、その中にも税金は含まれている。現在、日本の消費税率は八パーセントだが、今年十月に、十パーセントに引き上げられる。平成元年より施行された消費税ははじめは三パーセントだった。それから、平成九年には五パーセント、平成二十六年に八パーセントへと変化した。それに伴って、反対する人。または、賛成する人。賛否両論だろう。反対する人の意見としては、自分も含めた国民一人一人の負担が大きくなるから。という理由があるだろう。私は、消費税率の引き上げにどちらかといえは賛成だ。理由は、この作文を書くにあたって配布された資料に、国の税金による収入と、国の支出が書かれていたからだ。国の収入において、一番多いのは、所得税。次に消費税である。消費税を増税するメリットは、確かに、国民一

人一人の負担は大きいかもしれないが、納めた税金によって、豊かな生活、暮らしやすい日本の世の中になることを考えたら、増税をするメリットになるだろう。必ずしも日本が豊かで暮らしやすい世の中になるとい保証はない。しかし、自分が生活するこの国を、国民が信用しなければならぬ。だから私は、賛成である。

今は、まだ中学生で、税金への意識はうすいかもしいない。だから、これから、大人になるに連れて、少しずつ知識を身につけて、世間に広めていきたい。そうすれば、国民が税金に対して関心を持ち、意味をしっかりと理解した上で税金を納めることができるのではないだろうか。今は、何気なく、何も意識せずに払っている消費税が、これからますます増税したとしても、意味をきちんと理解すれば、私たちのような子どもでも、社会に貢献できるのではないだろうか。そのためには、税について、深く考える場を設け、これからの社会をよりよくするためにはどうすれば良いかを話し合っていく必要があると私は考える。大人になっても、この作文を書くときに考えたこと、感じたことを忘れず、国民一人一人が、社会に関わる一員ということ、世の中に広め、日本を、よりよい国にしていきたい。

